

市立病院の災害対応について

病院総務課 岩澤 芳樹

〈災害拠点病院について〉

当院は神奈川県より災害拠点病院に指定されており、災害時の医療活動において地域の中心的な役割を担うよう位置づけられています。

災害拠点病院は、重症・重篤な傷病者の受入れや、傷病者の広域・域内医療搬送への対応、医療救護班やDMATの派遣、建物の耐震化や非常電源の確保、地域医療機関への応急用医療資器材の貸出し機能など様々な指定要件をクリアした病院を指し、神奈川県内では33か所の病院が災害拠点病院として位置づけられています。

〈東日本大震災時の対応〉

市内で震度5を観測した東日本大震災では、災害対策本部を院内に設置し、院内の被害状況や市内の状況、ライフライン等の情報を収集・整理し、傷病者の受入れ等に備えました。

当院の建物は、震度7の揺れにも耐えうる免震構造を有し、病院のライフラインでもある電力は非常用電源が正常に稼働していたため、震災当日は市内全域で停電が発生している中、当院では必要な診療行為を継続することができました。

その後、他院より人工呼吸器を装着した患者受入れの問い合わせや資器材貸出し等の依頼を受け、災害対策本部にて意思決定を行い、適宜対応しました。

〈DMATについて〉

DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略であり、災害の急性期（災害発生から48時間以内）に活動できる機動性を持ち、厚生労働省が実施する「日本DMAT隊員養成研修」を受講した救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームのことです。

当院はDMATを1チーム保有しており、その構成は医師3名、看護師2名、調整員1名となっております。



【当院のDMAT隊員】



【DMATチームロゴ】

DMATの活動は自己完結を基本とし、災害現場での医療活動はもちろんのこと、衣・食・住を全てチームで持参した資器材によって賄います。

また、被災した医療機関に派遣され、医療

活動の補助や現地本部での情報整理、傷病者の搬送手段確保などを実施していきます。

DMA Tは災害時に即座に活動できるよう、年間を通して全国各地で開催される様々な訓練に参加し、救急医療の専門家として技術の向上を図っています。



【茅ヶ崎駅にて JR 東日本主催の訓練に参加】



【宮崎県新田原基地にて国主催の訓練に参加】

〈茅ヶ崎市立病院の災害対応訓練〉

当院は災害拠点病院として毎年、実践的な災害対応訓練を実施しております。

平成25年度は、神奈川県で主催している「ビッグレスキューかながわ」と合同訓練を実施しました。

ビッグレスキューかながわには県内外含め、約100機関が参加し、当院で実施された訓練では東京や埼玉などから駆けつけた5隊のDMA Tチームと連携し、傷病者のトリアージ(※)、入院患者や重症患者のドクターヘリによる広域医療搬送等を実施しました。

※トリアージとは…災害時に医療資源(医療ス

タッフや医薬品等)が制約される中で、一人でも多くの傷病者に最善の治療を行うため、傷病者の緊急度に応じて、搬送や治療の優先順位を決めること。



【ビッグレスキューかながわの様子①】



【ビッグレスキューかながわの様子②】

平成26年度は、11月8日(土)に災害対応訓練の実施を予定しています。この訓練は、茅ヶ崎市消防、寒川町消防、湘南看護専門学校、院内ボランティアの方々にご協力をいただき、大規模災害発生時の対応や関係機関との協力体制強化を目的としています。

〈最後に〉

災害時に医療活動を展開するためには、継続的な訓練に加え、地域の医療機関や関係機関との協力が不可欠となります。

今後はより一層、訓練等を充実させるとともに、協力体制の強化を図っていき、災害拠点病院として地域の医療に貢献できるよう、病院を挙げて、努力をして参ります。